



NPO高知県
日中友好新聞

2021年10月4日

No.72号

発行責任者 岡林俊司

編集人 坂本茂雄

NPO 法人高知県日中友好協会

〒780-0870 高知市本町4丁目

1-37丸ノ内ビル1F8号

TEL: 088-825-0011 / FAX: 088-825-0513

nichu-kochi@movie.ocn.ne.jp

<http://kochi-nichu.com>

農作業に汗流す！！（仁淀川町・森地区）

8月28日（土）に4人の高知地区中国留学生学友会役員趙倩（チョウ セイ・女性）、張瑜婧（チョウ ユセイ・女性）、尚元地（ショウ ゲンチ・男性）、黄炳南（コウ ヘイナン・男性）は、いつも学友会活動に積極的な関心を持ち連携を保っている NPO 高知県日中友好協会の役員田村信雄さんの農業作業に協力しました。緊急事態宣言のため、留学生参加者が予定人数より減少しました。他に農業のプロである会員の松岡由紀彦さんも同行しました。

今回の農作業は主に小夏樹の下草刈りと牛の肥料をやるなど簡単な作業でした。今後農業分野において活躍しようと考えている尚元地さん（高知大学農学部1年生・学友会実行委員）は、今回の活動を通じて、自分の専門知識を実践しながら、草刈機などの実習もし、農学の知識をより深く理解できたと言っていました。留学生たちは「このような活動に参加したおかげでより充実した留学生生活を楽しむことができ、心より感謝しております。」と喜んでいました。来年の初夏の小夏の収穫が楽しみです。そして、農作業を終えてから田村さんらと昼食をとりながらいろいろと交流することができ、また、食後にとても綺麗な川（仁淀川の支流である長者川）にも行って、日本の川を見学することもできて、留学生たちは田村さんや松岡さんから、日本の清流についてのことも紹介してもらいました。この日は30度以上の気温でとても暑かったので私と尚君は清流の水泳も十分に楽しみました。またスイカも全員で存分に食べました。



尚元地さん



松岡さん撮影

参加者はみな、今後は、留学生学友会役員の名にふさわしい姿勢で、日本で様々なことを体験し、誇りと自信を持って頑張りたいと思っています。この日の農作業体験活動にご協力頂いた日中友好協会役員の西岡史雄さんにも感謝申し上げます。

高知地区中国留学生学友会副会長 黄炳南



高知県の徐福伝説

高知県の徐福伝説については、高知県高岡郡佐川町斗賀野の郷土史家である「明神健太郎」（1906～1985）編著「高吾北文化史＝第二巻」“郷土の自然と伝説・実話”の中、“虚空蔵山鉾ヶ峯縁起”で要約次のように述べられている。天下を統一した秦の始皇帝は、神仙思想を信じ、扶桑国（日本）には「蓬莱」「方丈」「瀛州」（エイシュウ）の三山があり、仙人が住み不老不死の霊薬を作っていると。そこで重臣方士徐福や張郎らに命じて扶桑の国へ出発させたのは今から約 2200 年前であった。命をおびた徐福らの一行は童男童女ら数百名と金銀、珠玉、五穀、器具など交換の財宝を山積した船団を連ねて「烟台」から出帆した。徐福の船団が最初に着船したのは肥前国（佐賀県）有明湾の寺井津であったが、その後再び出帆、土佐沖まで来たところで運悪く大シケに遭遇、須崎浦ノ内に漂着した。傷心に痛む一行はあれが蓬莱山だと浦ノ内の漁師たちに教えられ彼方の仙人が住むという高山に登った。漸くにして仙人がいるらしい山頂に上り得たが、日は既に西山に没したので柴を折り敷いてシトネとした。「柴折り峠」の名前の由来となる。蓬莱山＝虚空蔵山に夜明けが訪れやがて壮大な大海の日の出が始まり、一行は期せずして水天万里の故国の空をのぞみ、望郷の念やるかたなく腰の鉾を高くかざし、抱き合って号泣したという。「鉾ヶ峯」（虚空蔵山）の名前の由来となる。一行は久しく山上を彷徨うたが、ついに仙人に逢うことも、仙薬を見つけることもできず、持参した金銀財宝を山上に埋めて山を下りた。その後、張郎は始皇帝への報告のため少人数で帰国の途につき、一方徐福一行は土佐浦をあとにして紀伊の熊野浦に漂着し農耕、水産や捕鯨の術を教え、地方文化の発展に大いに貢献し、徐福を地方民は神として祭り尊敬し、熊野には徐福廟がある。-----というものである。

「鉾ヶ峯」（虚空蔵山）は標高 675 メートルで佐川町斗賀野より車で虚空蔵山、わんぱく広場、山崎記念天文台広場方面へ上り、頂上へも車で行くことはできるが、広場より頂上までの約 2 キロメートルは道はよくない。天文台広場前には徐福に関する立派な石碑がある。広場より少し上り峠より土佐市永野方面へ約 200 メートル下ると広い駐車場のある「鉾ヶ峯寺」に至る。



天文台前の碑



鉾ヶ峯寺

峠に戻り頂上に着くと広場になっておりテレビ塔が林立している。頂上は佐川町斗賀野、須崎市吾桑、土佐市永野地区の交差する地点にあり、見下ろせば左手に土佐市宇佐港、須崎市浦ノ内、右手に須崎港、はては土佐湾、太平洋が望め「土佐十景」のひとつである。

また頂上には室戸岬の「最御崎寺」(ホツミサキジ)に祀ってある虚空蔵菩薩の見向いとして弘法大師が虚空蔵菩薩を安置したと伝えられており、その石像が祭られている。その石像の右後方には高知県出身の文豪「大町桂月」の胸像と句碑があり、大正7年8月に土佐市永野方面より徐福一行が辿ったであろうと思いうかべながら桂月さん一行も頂上への道をのぼったのではあるまいか。



頂上の虚空蔵菩薩

この他に JR 佐川駅より須崎方面へ約 2 キロメートル、線路の左手に五位山緑地公園がある。広い駐車場もある。小高い丘の斜面には子供の遊具があり、約十分で展望台に着く。

展望台には 1990 年に佐川町が徐福伝説を記した石碑があり、その後方の山並の右端、テレビ塔が林立するところが鉾ヶ峯（虚空蔵山）である。

徐福一行が来たであろうその時代の日本は縄文晩期から弥生期への移行期であり、眼下に広がる田園地帯に暮らした人々はどのような生活をしていたのであろうか。徐福の碑を眺めながらあれこれ夢とロマンは尽きないものである。



五位山展望台



五位山徐福伝説の碑

徐福一行が探し求めた不老長寿の仙薬は一説によれば古木の根元に生える「靈芝」＝サルノコシカケとも言われている。ここで梅の古木に自生した貴重な「靈芝」を紹介しよう。産は仁淀川町で 2021 年 9 月のものである。

始皇帝の命を受けた徐福一行が総勢 3000 人で出発したのは、前漢の人、“司馬遷”（紀元前 145～前 86）によって書かれた第一級の歴史書「史記」の記述によれば紀元前 219 年とある。徐福については 1982 年 6 月に中国の歴史学者によって江蘇省の出身で実在の人であったと発表されている。

時代は下って室町時代、高知市五台山吸江（ギウコウ）で隠遁生活をおくったこともある禅宗夢窓派“夢窓疎石”（1275～1351）の高弟で臨濟宗の高僧であり五山文学の双壁の一人と言われている土佐出身の“絶海中津”（ゼッカイチウシン）（1336～1405）が明国に渡り（1366 入明～1376 帰朝）、明の皇帝朱元璋（洪武帝）と会見し、徐福について問答をかわし、帰ってこない徐福一行のことを懐かしんだという。



梅の古木

靈芝

高知市五台山吸江寺（吸江庵）の開山は夢窓疎石であり、三世が絶海中津である。吸江寺にはともに室町時代作の夢窓疎石と日中文化交流の先達である絶海中津の木像が大切に安置されている。



絶海中津ゆかりの高知市五台山吸江寺

文と写真
NPO 高知県日中友好協会理事
田村信雄
2021年9月

日中友好!“リンゴ狩り”と“徐福伝説”探索に行きませんか!

気持ちの良い秋の一日、中国人留学生学友会の皆さんを招待して“日中友好リンゴ狩り”と“徐福伝説”の史跡探索を下記の通り実施します。会員の皆さん奮ってご参加を!

日時：2021年11月3日（水・祝日）

場所：土本観光果樹園（佐川町二ツ野 1308（0889-22-0206）

五位山緑地公園（昼食もこちらでとります。）

参加費：1,230円（入園料 630円、弁当代 600円）※留学生は当協会負担

集合場所：高知大学朝倉キャンパス（正面構内）へ10時までに（※留学生30人ほどを参加者の自家用車で乗せていきますので、車のある方は車で来てください。）

主催：NPO 高知県日中友好協会

申込：世話役の西岡史雄常任理事（080-6388-1515）へ10月25日（月）までに。

藤原充子顧問より

10万円のご寄付いただく

ご著書の『この子の父親は、どっちですか!?!』の売上より、10万円をご寄付いただきました。ありがとうございます。



「友好手帳 2022」を販売しています

ご活用を!

2022年版の日中「友好手帳」を販売しています。手帳には日本・中国歳時記、中国の歴史記念日、住所録、全国地下鉄路線図や日本と中国の歴史的文書・年史、中国全図、伝統行事、世界遺産（自然・文化）、少数民族、日中貿易・相互往来、友好都市一覧、中国の機関・団体一覧、などほかの手帳には載っていない記述がたくさんあります。基本的な知識も得られます。ぜひご購入のうえご活用ください。申し込みは事務局か役員まで。手帳は黒・赤の2種類です。

販売価格：900円